

3. 馬籠中山道地区

(1) 景観形成に関わる取組

馬籠中山道地区ではこれまで住民主体となり、以下に示すような景観形成に関する取組がされてきました。

昭和 47 年（長野県木曾郡山口村）

住民憲章の制定（中山道神坂地区保存に関する決議）

〈概要〉

新茶屋から峠までの広い地域を「風致保存区域」、馬籠宿を「特別風致保存区域」に指定し、それぞれに遵守事項を決めた。憲章は行政とは別個に住民の決議で制定され、「神坂地区風致保存委員会」を設け、営業や建築・土木事業を行うにはあらかじめ届出、委員会の指導助言を受けることを定めた。

平成 14 年（長野県木曾郡山口村）

心につながるふるさと景観形成住民協定制定

〈概要〉

「馬籠地区・新田地区・青の原地区・上の原地区」、「峠地区・伝田地区」、「荒町地区」のそれぞれで「心につながるふるさと景観形成住民協定制定運営委員会」を設け、建築物・広告物・自動販売機・緑化・環境整備等に関する事項定めた。

平成 17 年 長野県木曾郡山口村が岐阜県中津川市へ編入合併

平成 19 年（岐阜県中津川市）

景観計画重点区域（中津川市景観計画）

これまでの住民主体の景観形成に関する取組を受け継ぎ、景観計画重点区域を設け良好な景観形成を図る。

(2) 馬籠中山道地区の景観特性

馬籠宿地区

■坂のまちの宿場町

坂の狭い中山道の両側に軒を連ねる集落の面影は、江戸時代そのままの風情が漂います。敷き詰められた石畳や、宿場町に敵が侵入を防ぐため街道を鉤の手に曲げた柵形も往事の面影を残しています。まちなみは地形にあわせて緩やかにカーブする街路沿いに形成され、道に進むにつれて次々と展開する景観の連続性が、地形上、3次元的に生み出されています。



■木曾路の家並み（街道の建築物）

明治28年、大正4年の大火によって馬籠宿は焼失しており、江戸期の建物が残っていないにも関わらず木曾路の家並みが並ぶ宿場町の面影を住民の手により維持されています。



新茶屋地区

■木曾と美濃の入口

落合石畳地区に連続し、島崎藤村の筆による道標が木曾と美濃の境界を案内しており、その藤村碑や数々の句碑などとともに街道の景観が残されています。



峠地区

■江戸の建築遺構が残るまちなみ

この集落は、宝暦12年（1762）の大火でほぼ全焼していますが、その後は、火災もなく今も江戸時代の建築遺構を残しています。峠集落の建物が切れた、すぐ上から集落を見下ろすと、街道が右から左へゆっくり曲がっていく景観がみられます。本を伏せたような切妻平入の緩い勾配屋根が重なり合い連なっていく様子が印象的です。



(3) 景観形成の目標イメージ

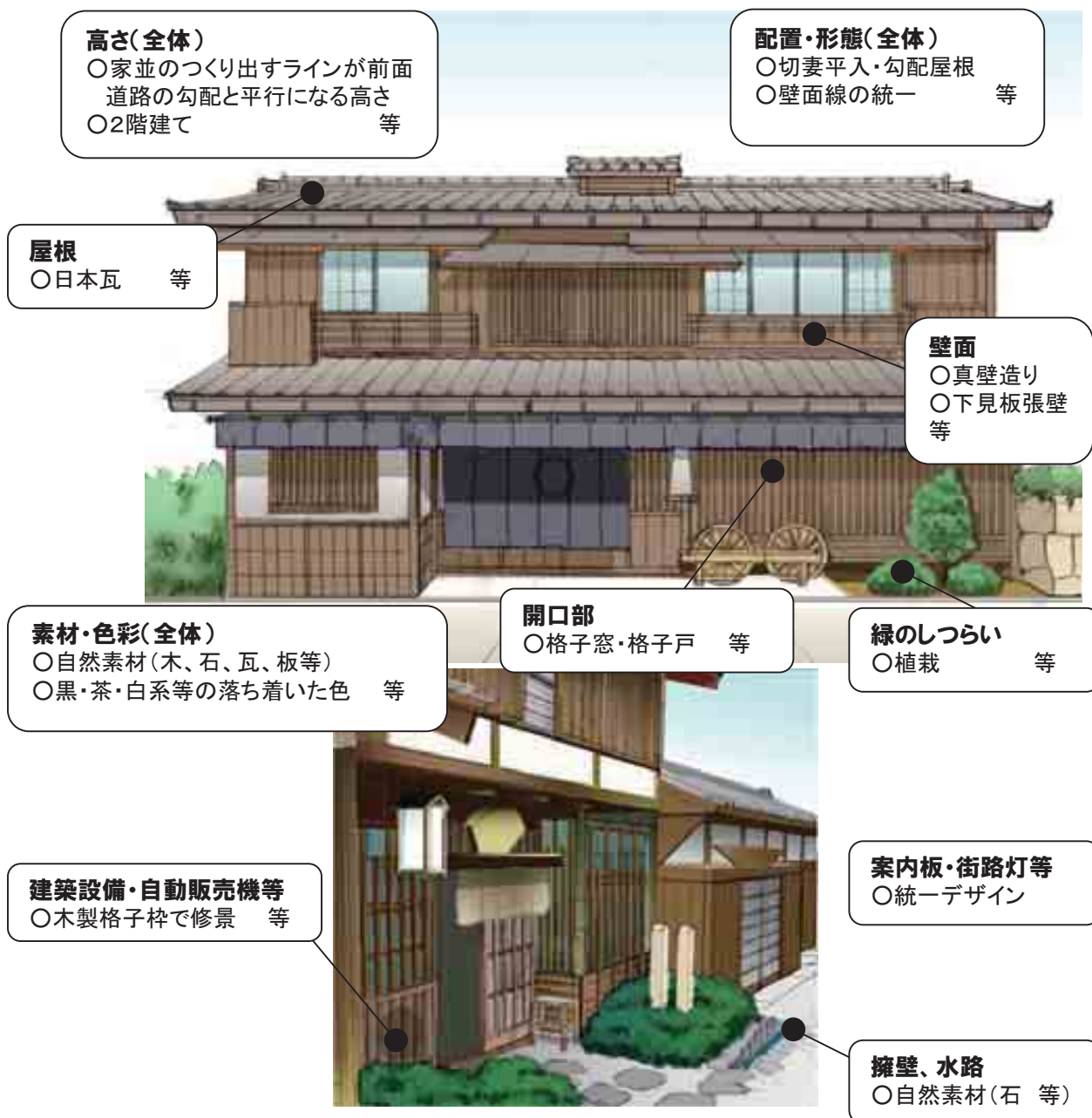
馬籠宿地区

以下の方針に基づき、馬籠宿地区の景観形成を図ります。

良好な景観形成の方針（馬籠宿地区）

- 「神坂地区保存に関する決議」（保存憲章）の精神を受け継ぎ、馬籠宿場町のまちなみ景観を守り、育てていきます。
- 「心につながるふるさと景観形成住民協定」のもと、坂にあるまち馬籠宿の個性あふれるまちなみ景観を守っていきます。
- 街道の建物と一体となった宿場町地区にふさわしい公共空間をつくります。

■街道の建築物の代表的な形態・意匠等



新茶屋地区

以下の方針に基づき、新茶屋地区の景観形成を図ります。

良好な景観形成の方針（新茶屋地区）

- 美濃と木曾の境であり、また旅人の足を休める場所として、新茶屋の街道景観を守り、育てていきます。
- 「心につながるふるさと景観形成住民協定」のもと、街道景観を守っていきます。
- 周囲の緑や石碑、一里塚等と調和した、街道の集落地区にふさわしい公共空間をつくります。

■街道の建築物の代表的な形態・意匠等によるまちなみイメージ



峠地区

以下の方針に基づき、峠地区の景観形成を図ります。

良好な景観形成の方針（峠地区）

- 街道の歴史を今に伝える江戸期の建物が残る集落景観を守り、育てていきます。
- 「心につながるふるさと景観形成住民協定」のもと、街道景観を守っていきます。
- 街道の建物と一体となった街道の集落地区にふさわしい公共空間をつくります。

■街道の建築物の代表的な形態・意匠等によるまちなみイメージ

配置・形態・高さ(全体)

- 切妻平入・勾配屋根
- 壁面線の統一 等

素材・色彩(全体)

- 自然素材(木、石、瓦、板等)
- 黒・茶・白系等の落ち着いた色 等



(4) 3つの分類

景観計画重点区域内の建築物に関して、「保全型」「整備型」「形成型」の3つに分類し、それぞれに修景基準を設けています。「保全型」「整備型」「形成型」の修景に関する基本的な考え方は以下の通りです。

保全型
主に街道の建築物（中山道宿場町に特徴的な意匠を用いた建築物）

〈基本的考え方〉
街道の建築物の現状維持・保全を基本とする。



整備型
一部修景すれば街道の建築物へと復活する

〈基本的考え方〉
保全型を見本とし、現代の生活様式や店づくりに応じて柔軟に修景を行う。



形成型
街道の建築物以外（主に新しい建物）

〈基本的考え方〉
街道の建築物の良さを活かし、建築物の高さや配置、屋根の形、デザインや色などを工夫する。




↑ 目指すべき方向の解説

全ての建築物が修景により保全型の街道の建築物を目指すのではなく、形成型→整備型→保全型へと段階的に修景を行い、ゆっくりとまちなみを揃えていきます。

例) 開口部の材質

派手な色のアルミサッシ（形成型）→落ち着いた色のアルミサッシ（整備型）→木製（保全型）

■修景基準の構成（馬籠宿地区 88 頁以降、新茶屋・峠地区 119 頁以降）

- ⑤修景基準
 - 保全型 — 街道の建築物
 - 整備型 — 準・街道の建築物
 - 形成型 — 新しい建築物
 - 建築設備・付帯物など

(5) 馬籠宿地区の修景基準

修景基準には「保全型－街道の建築物の修景基準」、「整備型－準・街道の建築物の修景基準」、「形成型－新しい建物修景基準」、「建築設備・付帯物などの修景基準」の4つの基準があります。

■保全型・・・街道の建築物

項目	修景基準	頁
素材	屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物を取り入れるかまたは修景を行う。	90
色彩	茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。	90
屋根	平入り切妻の日本瓦葺とする。街道の建築物の屋根勾配を基本とする。	92
壁面	現状の壁面位置、街道の建造物の特徴である意匠の保持を心がけ、現状の様式を保全する。やむを得ず改修する場合には現状の景観を損なわないようにする。	96
開口部	街道の建築物の特徴を保持している建具を尊重する。やむを得ずアルミサッシを用いる場合は、出格子などの内側に入れたり、まちなみに調和する色調・意匠とする。	98
塀・門	街道の建築物の特徴を保持している塀・門を尊重する。	100

■整備型・・・準・街道の建築物

項目	修景基準	頁
素材	屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物を取り入れるかまたは修景を行う。	90
色彩	茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。	90
外観輪郭	外観をパラペット等で覆わず、庇を復元するなど街道の建築物の輪郭を保全する。	91
屋根	平入り切妻の日本瓦葺とする。現状もしくは街道の建築物の屋根勾配を基本とする。	92
庇	華やかな意匠とならないようまちなみに調和したものとし、街道の建築物の意匠を活用する。	94
壁面	元の壁面位置・意匠への復元を心がけ、街道の建造物の様式を保全又はとり入れる。やむを得ない場合にはまちなみに配慮したものとする。	96
開口部	街道の建築物の特徴を保持している建具を尊重する。やむを得ずアルミサッシを用いる場合は、出格子などの内側に入れたり、まちなみに調和する色調・意匠とする。	98
塀・門	街道の建築物の特徴を保持している塀・門を尊重する。	100

■形成型・・・新しい建築物

項目	修景基準	頁
素材	屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行う。	101
色彩	茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。	101
配置	道路境界線から一定の距離を持った位置に壁面線を統一させ建物を配置する。但し、前庭をとり、植栽等により壁面線の演出を行う場合においてはこの限りではない。	102
高さ	屋並みのつくり出すラインが前面道路の勾配と平行になる高さとする。街道側は2階建てを原則とするが、上記を満たした場合には3階建てまで可とする。	104
屋根	平入り切妻の日本瓦葺とする。真壁造り、格子窓、格子戸、下見板張壁等の意匠を取り入れる。街道の建築物の屋根勾配を基本とする。	104
壁面・開口部	格子窓、格子戸、漆喰塗壁、下見板張壁等の街道の建築物の意匠を取り入れる。	107
塀・柵・門	コンクリートブロックや金属類が露出することは避け、まちなみに調和したものとする。	110

■建築設備・付帯物など

項目	修景基準	頁
建築設備	空調室外機や燃料庫等の建築設備は木製格子枠で修景する。道路から見えない位置への設置に努める。	111
青空駐車場	道路に面した駐車場を設けることを避けます。やむを得ず設ける場合は、植栽を設置するなど、まちなみの連続性やうるおいに配慮する。	112
広告板・看板	位置、大きさ、意匠、色彩に配慮する。看板類の大きさは建物の外観形態を隠さない程度にし、まちなみに調和したものとする。 「心につながるふるさと景観形成住民協定」を遵守します。	113
自動販売機等の付属物	道路から容易に見通せる位置にある自動販売機、冷蔵庫等については、木製格子枠等の自然素材による修景を行う。	114
車庫	車庫の開口部は、格子戸、下見板張りなどの意匠とするなど、まちなみと調和を図る。スチールシャッターなどが露出することを極力避ける。	115
工作物	擁壁、水路のふたは石積、石張り等の自然素材を使用したものとする。	116
案内板、街路灯等	宿場町のまちなみ景観に調和し、統一の意匠を用いることで一体感を演出する。	117
緑のしつらい	まちなみの統一感を演出するため、敷地と道路、水路等との調和を図る緩衝として花や緑の植栽を推進する。また、敷地内に古木がある場合には、保全に心がける。	118

(6) 馬籠宿地区のまちなみ景観形成の手法・まちなみ修景事例

保全・整備型の修景の解説・・・街道の建築物および準・街道の建築物

馬籠宿の歴史や文化を今に伝える各時代の街道の建築物がもつ多様な様式・特徴を受け継ぎ、これらを活かしつつ機能に則して柔軟に修景することが大切です。

素材・色彩

街道の建築物

基準 - 素材

屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行う。

現存する街道の建築物に使われている素材は、地元の生きた有機的な材料が用いられ、時間とともに味わいが増してきます。



基準 - 色彩

茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。

街道の建築物は、無彩色か茶系を基調としています。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

屋根・外壁の色彩例 (上記写真のマンセル値)

(色相) / (明度) / (彩度)

屋根	● 3.9P	/	5.0	/	2.0
外壁	● N	/	8.1	/	0.0

●色彩のイメージ

外壁に無彩色や茶系を用いることにより、落ち着きを与えます。派手な色彩の外壁は良好な景観の妨げになります。



良い例



悪い例

基準 — 外観輪郭

外観をパラペット等で覆わず、庇を復元するなど街道の建築物の輪郭を保全する。

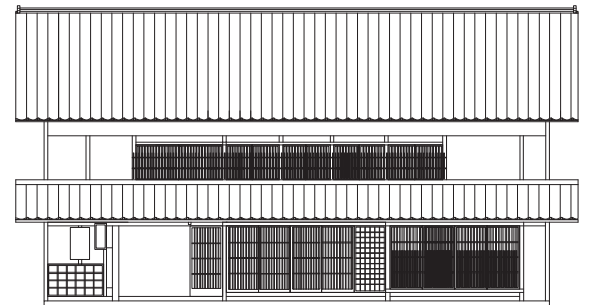
以前は3階以上の建物がなく、2階が居室に使われていることはまれで、多くは（少なくとも大火以降）蚕室として使われていたため、主屋は平屋か2階建てが一般的でした。今も2階建てが多く用いられています。



●外観輪郭

【つし造り】

馬籠宿地区では2階部分が低い「つし造り」が街道の建築物の大きな特徴となっています。つし造りなどの低い屋根を用いている最大の理由は、平入り屋根は上にいくほど空に開くため、道路や裏庭への採光上有利であることから来ています。

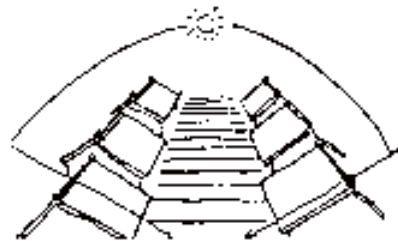


つし造り

【出し梁造り】

2階を張り出した出し梁造りは少なくとも大火後再建された馬籠にはなつた形式だと言われていますが、峠地区や妻籠に入れば一般的であることから、馬籠固有ではないとは言いきれません。

街道の建築物のつし造りとデザイン上で異質のものとならないよう、調和した出し梁造りとすることに努めます。



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)



出し梁造り

●外部輪郭の素材・色彩

屋根、外壁等には木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用いてまちなみを形成します。（色彩基準の詳細は149頁をご覧ください）

基準 - 屋根

(保全形)

平入り切妻の日本瓦葺とする。街道の建築物の屋根勾配を基本とする。

(整備形)

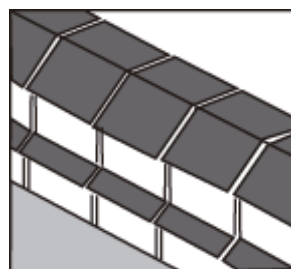
平入り切妻の日本瓦葺とする。現状もしくは街道の建築物の屋根勾配を基本とする。

馬籠宿地区の街道の建築物の屋根形態には以下に掲げる特徴があります。適度に凹凸を繰り返す壁面線の並びとともに家並みの連帯感・一体感をつくりだしており、美しいまちなみを構成する要素となっています。

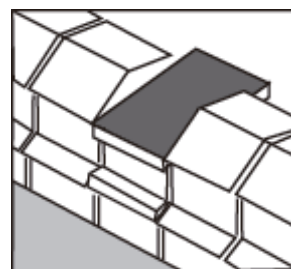


●切妻・平入り

道路と平行に棟を通した切妻屋根で、玄関が道路に面して設けられおり、隣家と妻側を接して建てています。寄棟や入母屋がまちなみの中に混在するとまちなみの連続性を失われます。



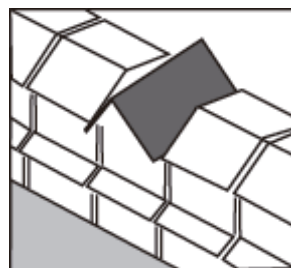
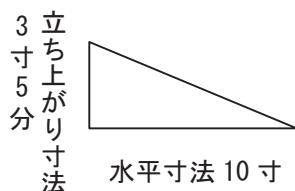
良い例



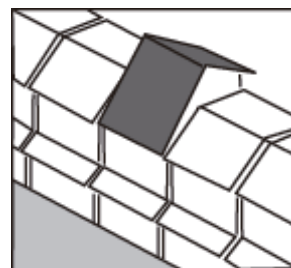
悪い例

●勾配屋根

現状もしくは街道の建築物の勾配を基準とし、3寸5分(コロビ勾配)程度とします。



悪い例



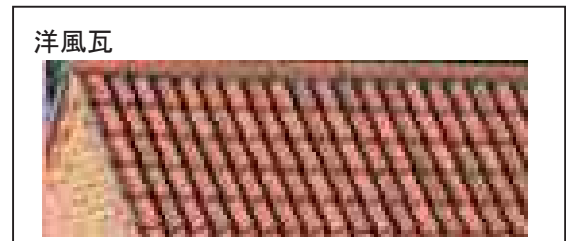
悪い例

●屋根瓦の種類・色彩

屋根瓦は左下のような黒色系の日本瓦とし、光沢を抑えたものを基準とします。派手な色彩の洋風瓦はまちなみの景観を阻害します。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)



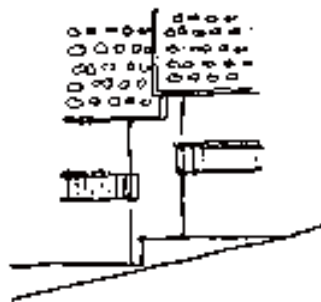
良い例



悪い例

●隣家との間にヒヤ

隣家との間に間口の余裕がある限り、ヒヤと呼ばれる裏側への細い通路が設けられています。ヒヤには両側の家から屋根がさしかかり雨が直接かからず、ちょっとしたものの保管場所に使われています。



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

基準 - 庇

華美な意匠とならないようまちなみに調和したものとし、街道の建築物の意匠を活用する。

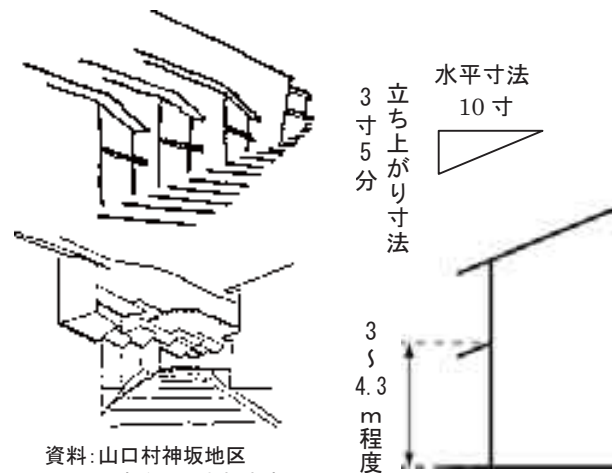
街道の建築物では、庇の出が大きな特徴となっています。庇は雨の進入や日照を妨ぎ、通風を確保する日本の風土をふまえた知恵であり、雨宿りや立ち話ができる場所でもあります。そして、前面道路の勾配と平行になるような高さで庇のラインが通ることによって美しく連続性のあるまちなみが形成されます。



●軒の高さの統一

屋並みと同様に庇のつくり出すラインが前面道路の勾配と平行になる高さとしします。

街道の建築物の軒の高さは 3～4.3m程度が用いられています。



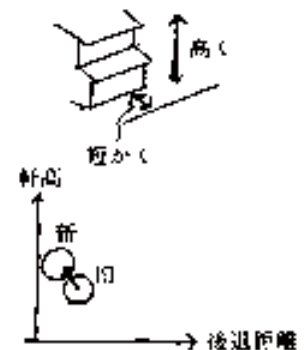
資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書 (S60)

●庇の勾配

現状もしくは街道の建築物の勾配を基準とし、3寸5分(コロビ勾配)程度としします。

■軒高／壁面後退距離（m）の平均を新古建物別に集計した結果

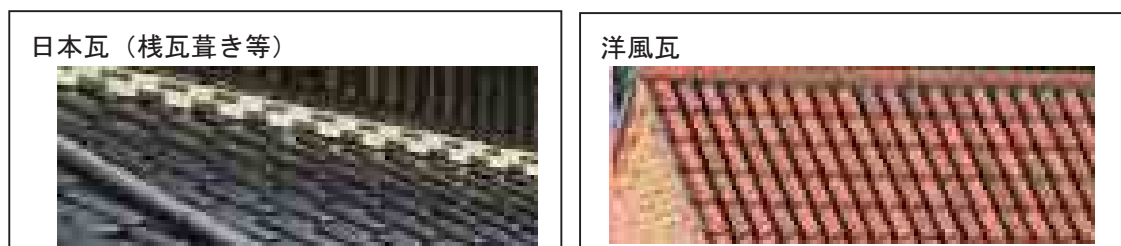
階数		1階建て	2階建て	3階建て
古	軒高	3.0	4.3	
	壁面後退距離	2.5	2.5	
新	軒高	3.4	5.1	6.1
	壁面後退距離	2.2	2.8	2.9



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書 (S60)

● 庇瓦の種類・色彩

屋根瓦は左下のような黒色系の日本瓦とし、光沢が抑えたものを基準とします。派手な色彩の洋風瓦はまちなみの景観を阻害します。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

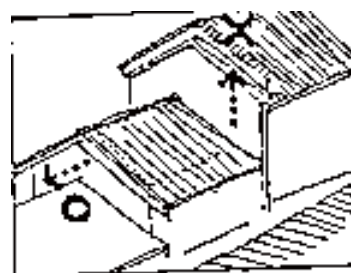


良い例

悪い例

● 妻側の庇 (ケラバ)

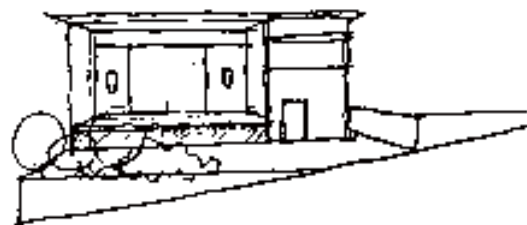
裏側への細い通路のヒヤ (93 頁参照) に雨が直接かからないように、妻側の庇を深く出しています。



資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書 (S60)

● 前庭との関係

一階正面と街道の間には 1~5mの空間があり、きわめて心地よい空間となっています。その理由の第一は、空間の幅が必ずしも一定ではなく凹凸があり、凹空間では3方が囲われて落ち着いた空間となります。第2は、大きな庇が出ていることであり、頭上も部分的に囲まれており、前方にのみ視界が広がり、こうした条件では人は心理的にきわめて安定します。



資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書 (S60)

基準 - 壁面

(保全型)

現状の壁面位置、街道の建造物の特徴である意匠の保持を心がけ、現状の様式を保全する。やむを得ず改修する場合には現状の景観を損なわないようにする。

(整備型)

元の壁面位置・意匠への復元を心がけ、街道の建造物の様式を保全又はとり入れる。やむを得ない場合にはまちなみに配慮したものとする。

街道の建築物の壁面の様式は以下に揚げる特徴があります。馬籠宿の特徴として壁面の様式は簡素を地でいくデザインが主流であります。

●正面壁面の形状

【下見板張壁・真壁】

壁は下見板を張るか真壁で土を塗り仕上げられています。生きた有機的な材料を用いており、時間とともに味わいを増しています。

●妻壁面の形状

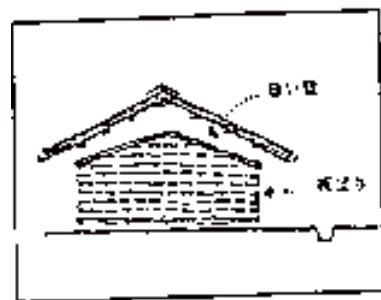
大きく見える妻壁は板張りを屋根下まで張り上げず、白い子壁を設け軽く見せています。あるいは、出窓、下屋、庇等をつけ立面に陰影をつけています。

【下見板張壁】

妻壁において土壁を風雨から守るために、その土壁表面に木材（下見板）を張った形状を用いています。



下見板張壁

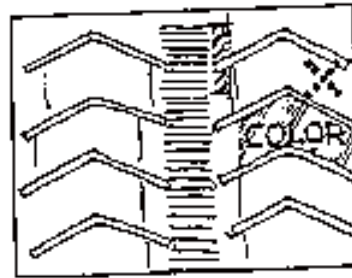


資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)



●壁面の材質・色彩

壁面には木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用いてまちなみを形成します。(色彩基準の詳細は149頁をご覧ください)



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

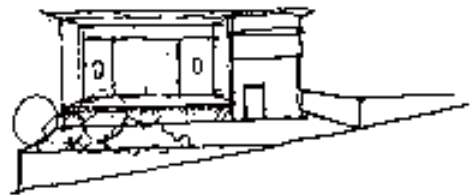
●凹凸の繰り返しながら連続する壁面

適度に凹凸を繰り返しながら連続する壁面によって、街路空間はインテリア化されています。集落内は建物を壁にした一つの部屋のようになっています。



●壁面の位置と前庭

一階正面と街道の間には1~5mの空間があり、きわめて心地よい空間となっています。その理由の第一は、空間の幅が必ずしも一定ではなく凹凸があることであり、凹空間では3方が囲われて落ち着いた空間となります。第2は、大きな庇が出ていることであり、頭上も部分的に囲まれており、前方にのみ視界が広がり、こうした条件では人は心理的にきわめて安定します。



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

基準 - 開口部

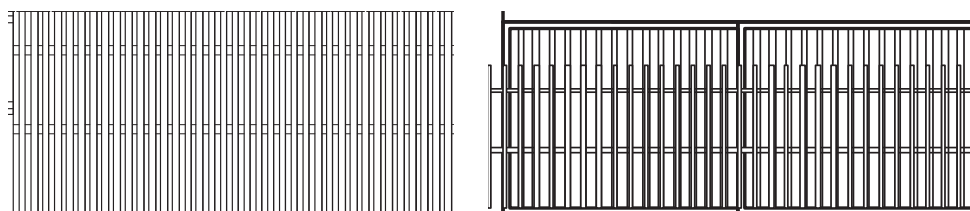
街道の建築物の特徴を保持している建具を尊重する。やむを得ずアルミサッシを用いる場合は、出格子などの内側に入れたり、まちなみに調和する色調・意匠とする。

街道の建築物の土間入口は大戸、部屋の前にはシトミまたは雨戸+障子であったと言われていいます。今でも雨戸+障子が見られ、格子も多く用いられています。



●開口部の形状

馬籠宿において下図のような縦線を基調とした格子の形状が主に用いられています。これらを基準とし、開口部の修景を行います。



●開口部の材質・色彩

開口部には自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。やむを得ずアルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行います。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

【玄関戸】 木製戸

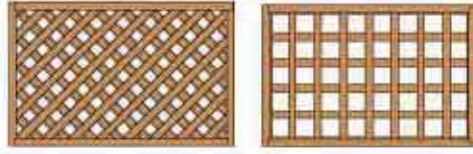


【窓】

悪い例



一般サッシ



ラティス格子(斜め形・正方形)

良い例



雨戸



格子

基準 - 塀・門

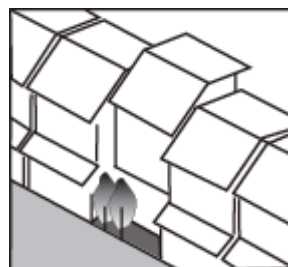
街道の建築物の特徴を保持している塀・門を尊重する。

街道の建築物では塀や門は基本的に設けず、植栽を施しまちなみの連続性を確保しています。

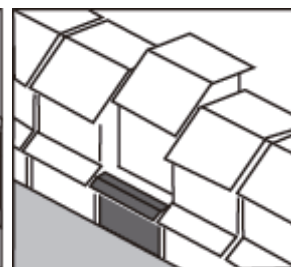


●生垣・塀・門の配置

前庭が大きく、道路との間にスクリーンを設ける場合は、植栽を用いることを基本とし、やむを得ない場合は土塀や板塀を用います。まちなみの連続感を途切れないように配置します。



良い例



良い例

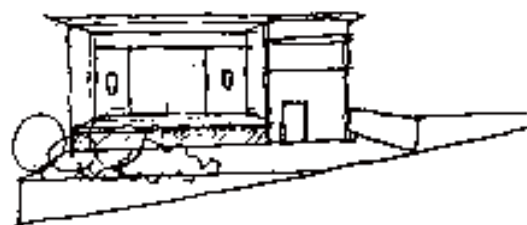
●塀・門の材質・色彩

塀・門を設ける場合は、木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。コンクリートブロック塀やネットフェンスの設置は避けます。



●前庭との関係

一階正面と街道の間には 1~5mの空間があり、きわめて心地よい空間となっています。その理由の第一は、空間の幅が必ずしも一定ではなく凹凸があり、凹空間では3方が囲われて落ち着いた空間となります。第2は、大きな庇が出ていることであり、頭上も部分的に囲まれており、前方にのみ視界が広がり、こうした条件では人は心理的にきわめて安定します。



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

形成型の修景基準の解説・・・新しい建築物

馬籠宿地区内には新しい建物が増えています。こうした新しい建物が、街道の建築物の良さを活かし、建物の高さや配置、屋根の形、デザインや色など工夫することで、馬籠宿らしいまちなみとして調和を図っていくことが大切です。

素材・色彩

新しい建物

基準 - 素材

屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行う。

材料は地場のもの、自然的有機的材料を用います。近代工業製品は必要などころに限るよう努めます。



基準 - 色彩

茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。

茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とします。なお、着色していない木材等はこの限りではありません。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)



街道の建築物の素材・色彩の良さを生かし、これらとの調和を図ることで連続感・一体感のあるまちなみが形成され、馬籠宿らしいまちなみをより印象づけます。

新建材を用いる場合は、光沢のない材料にするなど、材質や色彩についてまちなみに馴染むものを選ぶことに努めます。

なお、個々に選んだ建材が建ててみると統一感に乏しい、ということにならないように、全体的な素材の調和（デザイン）に配慮します。

基準 - 配置

道路境界線から一定の距離を持った位置に壁面線を統一させ建物を配置する。但し、前庭をとり、植栽等により壁面線の演出を行う場合においてはこの限りではない。

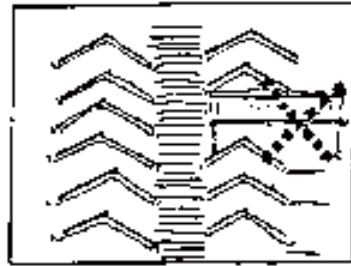
街道の建築物は街道から 1~5mに一階正面を設け、その空間を前庭として利用し、きわめて心地よい空間をつくっています。



●建築面積

敷地いっぱい大きな、一体的な建物を建てることは避けます。

機能・内容に応じて出来る限り、棟を分けるように配慮します。(主屋、便所、ハナレ、蔵、物置等)



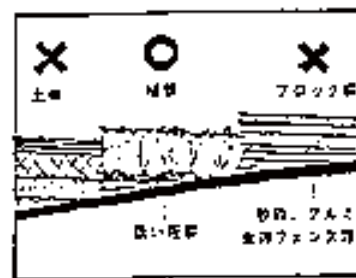
資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

●主屋は街道沿いに建てる

主屋は街道沿いに建て、採光、通風などの主な環境条件を道路及び裏側に依存し、側面はあくまでも副次的なものにすることに努めます。

●セットバックの建物

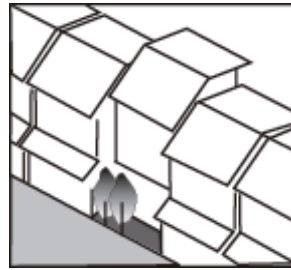
前庭が大きく、道路との間にスクリーンを設ける場合は、植栽を用います。やむを得ない場合に土塀や地元の木材を用いた板塀を用います。



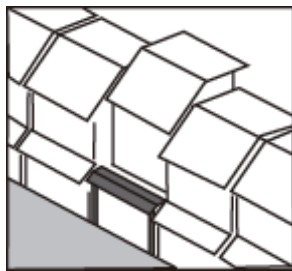
資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

●商業店舗の駐車場の配置

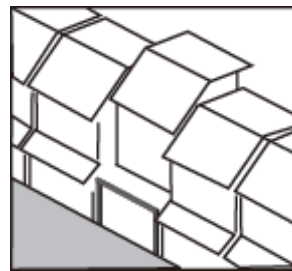
商業店舗の駐車場は建物の裏側に配置することに努めます。やむを得ず駐車場を建物の前面に配置する場合は、植栽や木製などの自然素材を使った出入口とすることに努めます。また、出入口を簡易な門で囲うだけでも連続性が確保できます。



良い例



出入口を瓦葺き、木製などの自然素材を設けることにより、まちなみと調和する



出入口を簡易な木製の門で囲むだけでもまちなみの連続性が保たれる

基準 - 高さ

屋並みのつくり出すラインが前面道路の勾配と平行になる高さとする。
街道側は2階建てを原則とするが、上記を満たした場合には3階建てまで可とする。

基準 - 屋根

平入り切妻の日本瓦葺とする。真壁造り、格子窓、格子戸、下見板張壁等の意匠を取り入れる。街道の建築物の屋根勾配を基本とする。

高さは周囲に馴染むよう配慮し、街道の建築物の平入り勾配屋根とします。街道の建築物は2階建てまでのものが多く、また日本瓦葺きの屋根や道路勾配に平行して庇が揃うことで、美しい連続性のあるまちなみが形成されます。

●高さ

高さは2階建てを原則とし、階高を抑え全体の高さを低く保ちます。坂の上にある家より高い屋根とならないようにします。

やむを得ず3階建てとする場合は、建物の外郭が2階家のそれを上回らないようにします。

●切妻・平入り

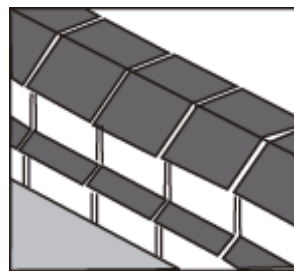
道路と平行に棟を通した切妻屋根で、玄関を道路に面して設け、隣家と妻側を接して建てます。寄棟や入母屋がまちなみの中に混ざるとまちなみの連続性を失われます。



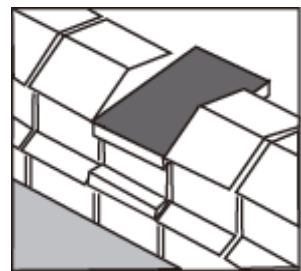
2階建ての民家が並び連続性が見られる



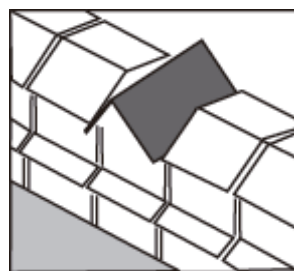
坂の上の隣家の高さを超えない3階建て



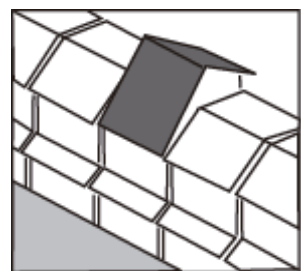
良い例



悪い例



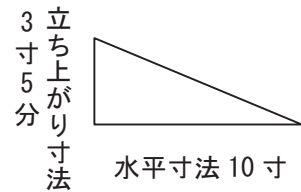
悪い例



悪い例

●勾配屋根

街道の建築物の勾配を基準とし、3寸5分（コロビ勾配）程度とします。



●屋根瓦の種類・色彩

屋根瓦は左下のような黒色系の日本瓦とし、光沢が抑えたものを基準とします。色瓦、カラー鉄板、着色スレート、グラスロン等の使用は避けます。派手な色彩の洋風瓦はまちなみの景観を阻害します。（色彩基準の詳細は149頁をご覧ください）



日本瓦（棧瓦葺き等）

良い例



洋風瓦

悪い例

●隣家との間にヒヤ

街道の建築物には隣家との間に間口の余裕がある限り、ヒヤと呼ばれる裏側への細い通路が設けられています。ヒヤには両側の家から屋根がさしかかり雨が直接かからず、ちょっとしたものの保管場所に使われています。

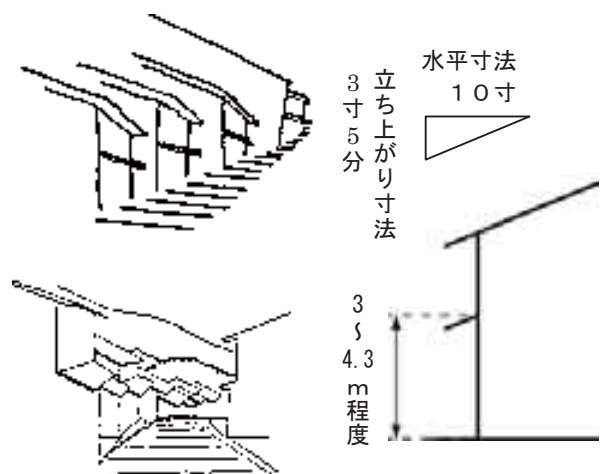


資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書（S60）

●軒の高さの統一

庇の出を大きくし、屋並みと同様に庇のつくり出すラインが前面道路の勾配と平行になる高さとしします。

街道の建築物の軒の高さは3～4.3m程度が用いられています。



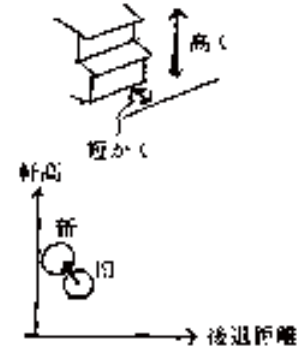
資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書（S60）

●庇の勾配

街道の建築物の勾配を基準とし、3寸5分（コロビ勾配）程度とします。

■軒高／壁面後退距離（m）の平均を新古建物別に集計した結果

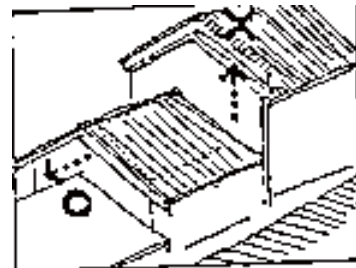
階数		1階建て	2階建て	3階建て
古	軒高	3.0	4.3	
	壁面後退距離	2.5	2.5	
新	軒高	3.4	5.1	6.1
	壁面後退距離	2.2	2.8	2.9



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書（S60）

●妻側の庇（ケラバ）

裏側への細い通路のヒヤ（93頁参照）に雨が直接かからないように、妻側の庇を深く出すことに努めます。



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

●軒下の構造

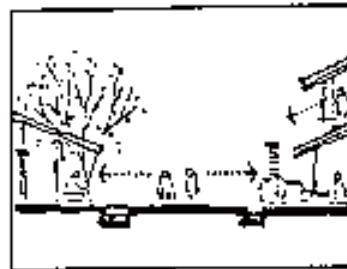
棟樋は木製樋（化粧を含む）を用いることに努めます。

木製軒下は化粧垂木露しとし、天井を張ることを避けます。

●庇下空間

庇下空間は立ち入れなくとも少なくとも視覚的に出来る限り開放し、演出をします。

この場合、緑が設けられある程度開放されているよう努めます。



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

基準 - 壁面・開口部

格子窓、格子戸、漆喰塗壁、下見板張壁等の街道の建築物の意匠を取り入れる。

馬籠宿地区の街道の建築物は、間口は5間前後が多く一般的です。間口の大きな建物は避け、やむを得ず間口が大きくなる場合は、デザイン上の工夫によってまちなみのリズムをこわさないように努めます。

新しく建てる場合は、柱、壁、開口部は個々に考えず、大きな面を構成する要素としてとらえて全体をバランスよく配置することに配慮します。

●正面壁面の形状

下のような街道の建築物の様式を出来る限り取り入れます。

【下見板張壁・真壁】

壁は下見板を張るか真壁で土を塗るかして仕上げられています。生きた有機的な材料を用いており、時間とともに味わいを増します。

●妻壁面の形状

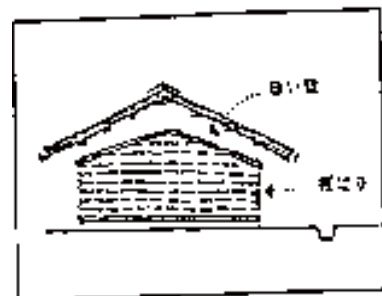
街道の建築物では大きく見える妻壁は板張りを屋根下まで張り上げず、白い子壁を設け軽く見せています。あるいは、出窓、下屋、庇等をつけ立面に陰影をつけています。このような様式を出来る限り取り入れます

【下見板張壁・真壁】

妻壁において土壁を風雨から守るために、その土壁表面に木材（下見板）を張った形状を用いています。



下見板張壁

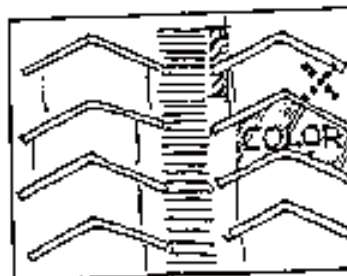


資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)



●壁面の材質・色彩

壁面には木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用いてまちなみを形成します。(色彩基準の詳細は149頁をご覧ください)



資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

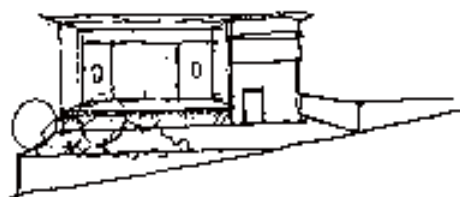
●凹凸の繰り返しながら連続する壁面

街道の建築物は適度に凹凸を繰り返しながら連続する壁面によって、街路空間がインテリア化されています。



●壁面の位置と前庭

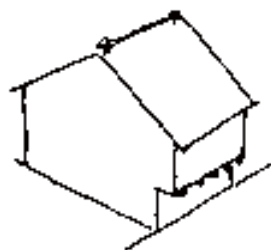
一階正面と街道の間には1~5mの空間があり、きわめて心地よい空間となっています。その理由の第一は、空間の幅が必ずしも一定ではなく凹凸があることであり、凹空間では3方が囲われて落ち着いた空間となります。第2は、大きな庇が出ていることであり、頭上も部分的に囲まれており、前方にのみ視界が広がり、こうした条件では人は心理的にきわめて安定します。



資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

●2階壁面の位置

2階壁面を街路側へ張り出しすぎないように努めます。出し梁造りは張り出しの規模により、圧迫感を生じやすいので十分に配慮します。

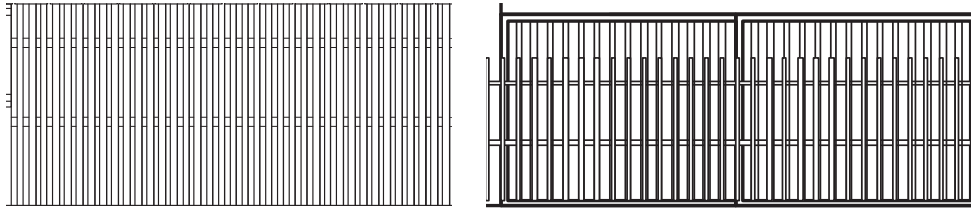


新しい出し梁造りは圧迫感が大きい

資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

●開口部の形状

馬籠宿において下図のような縦線を基調とした格子の形状が主に用いられています。これらを基準とし、開口部の修景を行います。



●開口部の材質・色彩

開口部には自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。やむを得ずアルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行います。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

【玄関戸】 木製戸

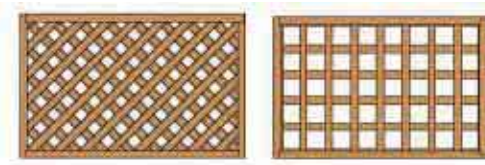


【窓】

悪い例



一般サッシ



ラティス格子(斜め形・正方形)

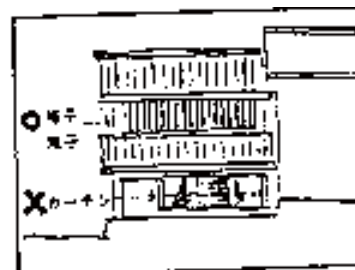
良い例



格子

●開口部の種類

カーテン、レース類の使用を避け、障子や格子を使用することに努めます。ガラスより障子を外側にするとまちなみに調和します。



資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

基準 — 塀・門

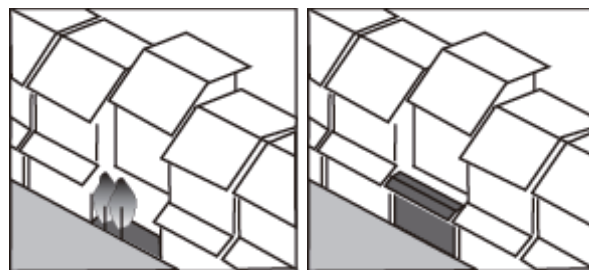
コンクリートブロックや金属類が露出することは避け、まちなみに調和したものとする。

街道の建築物は塀や門は基本的に設けず、植栽を施しまちなみの連続性を確保しています。



●生垣・塀・門の配置

前庭が大きく、道路との間にスクリーンを設ける場合は、植栽を用いることを基本とし、やむを得ない場合は土塀や板塀を用います。まちなみの連続感を途切れないように配置します。



良い例

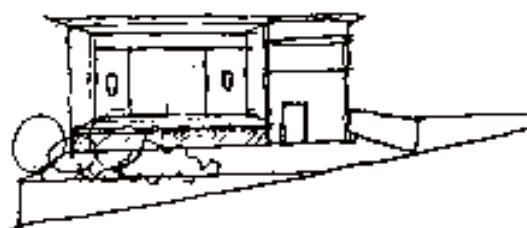
良い例

●塀・門の材質・色彩

塀・門を設ける場合は、木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。コンクリートブロック塀やネットフェンスの設置は避けます。

●前庭との関係

一階正面と街道の間には 1～5mの空間があり、きわめて心地よい空間となっています。その理由の第一は、空間の幅が必ずしも一定ではなく凹凸があり、凹空間では3方が囲われて落ち着いた空間となります。第2は、大きな庇が出ていることであり、頭上も部分的に囲まれており、前方にのみ視界が広がり、こうした条件では人は心理的にきわめて安定します。



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

建築設備・付帯物などの修景の解説

建築設備、車庫や駐車場、自動販売機などは、現代生活を営む上でなくてはならないものとなっています。しかし、道路からみえるところに露出している場合は、街道の建築物のまちなみの表情や連続性を阻害してしまいます。こうした建築設備や付帯物などについては、街道の建築物のまちなみに配慮する工夫が必要です。

建築設備

建築設備・付帯物など

基準 — 建築設備

空調室外機や燃料庫等の建築設備は木製格子枠で修景する。道路から見えない位置への設置に努める。

空調室外機などの建築設備はその室外機などがむき出しになっていると、まちなみの表情を崩してしまいます。



室外機に目隠しを施し、周囲の景観に調和している

●建築設備の配置

外観を阻害しないように、道路側のファサードに設けずに裏手に配置するなどの工夫をします。

●目隠しの形態

建築設備を道路側のファサードに設ける場合には、木製などの外観に調和したもので囲みます。また、室外機を外壁等と同色に塗るなどの工夫をします。

●目隠しの材質・色彩

目隠しには木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。

また、室外機に色を塗るなどの工夫をします。

Great (推奨)



縦線を基調とした和風格子壁面と同色に塗った室外機

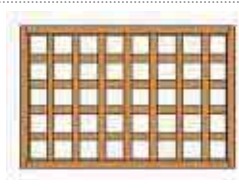


通りから望見できなくした室外機

Good (良い例)



横線を基調とした和風格子



正方形のラティス格子

Bad (悪い例)



格子なし斜めラティス格子

基準 — 青空駐車

道路に面した駐車場は街道の建築物の様式の柵や塀、植栽を設置するなど、まちなみの連続性やうるおいに配慮する。

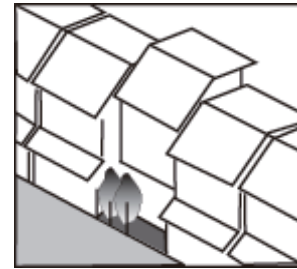
植栽などを設置すると、まちなみの連続性が生まれます。

●植栽の配置

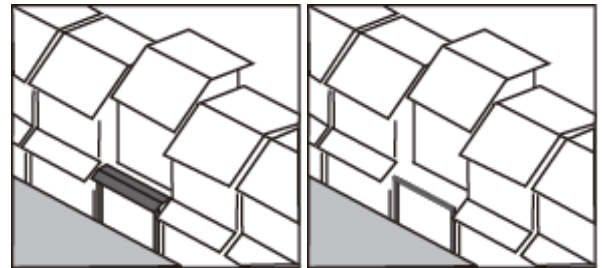
植栽をまちなみの連続感を途切れないように配置します。やむを得ない場合に土塀や地元の木材を用いた板塀を用います。

●商業店舗の駐車場の配置

商業店舗の駐車場は建物の裏側に配置することに努めます。やむを得ず駐車場を建物の前面に配置する場合は、植栽や木製などの自然素材を使った出入口とすることに努めます。また、出入口を簡易な門で囲うだけでも連続性が確保できます。



良い例



出入口を瓦葺き、木製などの自然素材を設けることにより、まちなみと調和する

出入口を簡易な木製の門で囲むだけでもまちなみの連続性が保たれる

基準 — 広告板・看板

位置、大きさ、意匠、色彩に配慮する。看板類の大きさは建物の外観形態を隠さない程度にし、まちなみに調和したものとする。

「心につながるふるさと景観形成住民協定」を遵守します。

広告物・看板は店舗などではその建物の顔であり、表札のようなものです。また、通りの賑わいをつくってくれます。それだけに全体の雰囲気を損なわない工夫が必要です。



木製等の看板により、街道の建築物と調和した景観となっている。

● 広告板・看板の配置

広告物の設置、掲出及び表示は、自己用に限ります。

● 広告板・看板の大きさ

高さ 5m以下、表示面積は 6m²以下とします。建築物の壁面に表示する場合は、同一壁面の 10%以下の面積とします。



● 広告板・看板の材質・色彩

広告物の材料は自然素材を用いて、歴史的な宿場に調和するものとし表示内容も宿場の品位を損なうことのないようにします。



基準 — 付属物

道路から容易に見通せる位置にある自動販売機、冷蔵庫等については、木製格子枠等の自然素材による修景を行う。

生活様式の変化に伴い、自動販売機やゴミ置き場などの付帯物が増加しつつありますが、これらのものを道路に面して露出せず、格子などで囲う、また色やデザインを配慮するなど、まちなみと調和するよう工夫します。

●配置

街道沿いの自動販売機は、屋内に設置することを原則とします。

●目隠しの形態

木製格子枠などの外観に調和したもので囲みます。

●目隠しの材質・色彩

目隠しには木などの自然素材を使用したものとし、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。

また、付属物に落ち着いた色を塗るなどの周辺に調和するものとしします。



自然素材により修景した自動販売機



屋内に配置した自動販売機

基準 - 車庫

車庫の開口部は、格子戸、下見板張りなどの意匠とするなど、まちなみと調和を図る。スチールシャッターなどが露出することを極力避ける。

まちなみとして連続性を保つためには、車庫に戸をつけるなどの工夫が必要です。また、やむを得ずスチールシャッターなどを使用する場合には、デザインや材質・色彩などに配慮し、街道の建築物のまちなみとの調和を図る工夫が必要です。



網入りガラス戸の場合は、つや消し黒、目の細かい格子、半透明のガラス戸が望ましい

●車庫の形態

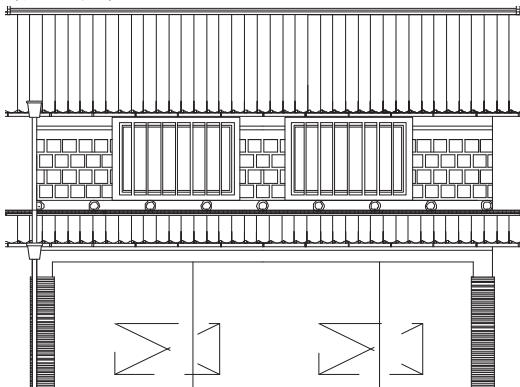
木製戸などの外観に調和したもので囲むなどの工夫をします。

●車庫の材質・色彩

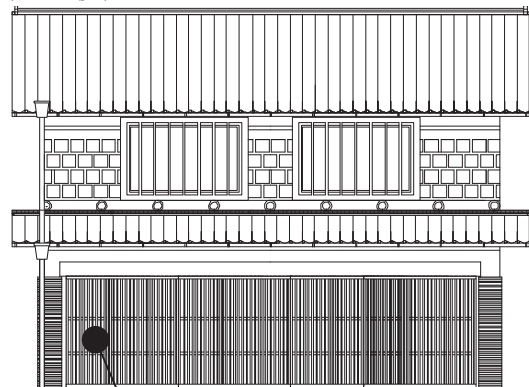
目隠しには木等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

●車庫のシミュレーション

(修正前)



(修正後)



格子の車庫扉を設置

基準 — 工作物

擁壁、水路のふたは石積、石張り等の自然素材を使用したものとする。

擁壁や水路などのデザインや材質・色彩などに配慮し、まちなみに馴染む工夫が必要です。

●擁壁、水路の素材

無機質なコンクリート擁壁・水路は避け、自然石等を用いた石積み擁壁・水路とします。

また、擁壁、水路に緑化を施すことにより、まちなみに調和します。

●水路のふたの材質・色彩

水路にふたをする場合は、下の写真のような石張りの材質を用います。

石の素材そのものの色を基調とします。



基準 — 案内板、街路灯等

宿場町のまちなみ景観に調和し、統一の意匠を用いることで一体感を演出する。

案内板や街路灯などのデザインや材質・色彩などを馬籠宿地区で統一を図り、まちなみに馴染む工夫が必要です。

●案内板・街路灯の形態

外観に調和したものとしします。案内板に屋根などをつけ、宿場町のまちなみを演出します。

●案内板・街路灯の材質・色彩

木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものや無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。



基準 - 緑のしつらい

まちなみの統一感を演出するため、敷地と道路、水路等との調和を図る緩衝として花や緑の植栽を推進する。また、敷地内に古木がある場合には、保全に心がける。

玄関や門、または窓やベランダにプランター等を設置して、まちなみにアクセントをつけます。また、季節の変化が楽しめるように演出します。

●緑の配置

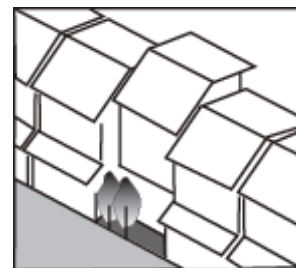
陶器製、竹製の和風花瓶等による鉢植えやプランターにより道路沿（前庭）、中庭及び裏庭の緑化の推進を図ります。

●垣根

垣根は生垣を原則とし、やむを得ない場合は、土塀や地元の木材を用いた板塀とします。

●管理、清掃等

ゴミ拾い、草刈、側溝の掃除等を継続的に行います。



良い例

(7) 新茶屋・峠地区の修景基準

修景基準には「保全型－街道の建築物の修景基準」、「整備型－準・街道の建築物の修景基準」、「形成型－新しい建物修景基準」、「建築設備・付帯物などの修景基準」の4つの基準があります。

■保全型・・・街道の建築物

項目	修景基準	頁
素材	屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物を取り入れるかまたは修景を行う。	121
色彩	茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。	121
屋根	平入り切妻の日本瓦葺とする。街道の建築物の屋根勾配を基本とする。	123
壁面	現状の壁面位置、街道の建造物の特徴である意匠の保持を心がけ、現状の様式を保全する。やむを得ず改修する場合には現状の景観を損なわないようにする。	125
開口部	街道の建築物の特徴を保持している建具を尊重する。やむを得ずアルミサッシを用いる場合は、出格子などの内側に入れたり、まちなみに調和する色調・意匠とする。	127
塀・門	街道の建築物の特徴を保持している塀・門を尊重する。	129

■整備型・・・準・街道の建築物

項目	修景基準	頁
素材	屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物を取り入れるかまたは修景を行う。	121
色彩	茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。	121
外観輪郭	外観をパラペット等で覆わず、庇を復元するなど街道の建築物の輪郭を保全する。	122
屋根	平入り切妻の日本瓦葺とする。現状もしくは街道の建築物の屋根勾配を基本とする。	123
庇	華美な意匠とならないようまちなみに調和したものとし、街道の建築物の意匠を活用する。	124
壁面	元の壁面位置・意匠への復元を心がけ、街道の建造物の様式を保全又はとり入れる。やむを得ない場合にはまちなみに配慮したものとする。	125
開口部	街道の建築物の特徴を保持している建具を尊重する。やむを得ずアルミサッシを用いる場合は、出格子などの内側に入れたり、まちなみに調和する色調・意匠とする。	127
塀・門	街道の建築物の特徴を保持している塀・門を尊重する。	129

■形成型・・・新しい建築物

項目	修景基準	頁
素材	屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行う。	130
色彩	茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。	130
配置	道路境界線から一定の距離を持った位置に壁面線を統一させ建物を配置する。建物が後退する場合は木製、石積、漆喰塗等の門塀及び生垣等で壁面線をつくる。	131
高さ	街道側は2階建て以下を原則とする。	132
屋根	平入り切妻の日本瓦葺とする。真壁造り、格子窓、格子戸、下見板張壁等の意匠を取り入れる。街道の建築物の屋根勾配を基本とする。	132
壁面・開口部	格子窓、格子戸、漆喰塗壁、下見板張壁等の街道の建築物の意匠を取り入れる。	134
塀・柵・門	コンクリートブロックや金属類が露出することは避け、まちなみに調和したものとする。	137

■建築設備・付帯物など

項目	修景基準	頁
建築設備	空調室外機や燃料庫等の建築設備は木製格子枠で修景する。道路から見えない位置への設置に努める。	138
青空駐車場	道路に面した駐車場を設けることを避けます。やむを得ず設ける場合は、街道の建築物の様式の柵や塀、植栽を設置するなど、まちなみの連続性やうおいに配慮する。	139
広告板・看板	位置、大きさ、意匠、色彩に配慮する。看板類の大きさは建物の外観形態を隠さない程度にし、まちなみに調和したものとする。 「心につながるふるさと景観形成住民協定」を遵守します。	140
自動販売機等の付属物	道路から容易に見通せる位置にある自動販売機、冷蔵庫等については、木製格子枠等の自然素材による修景を行う。	141
車庫	車庫の開口部は、格子戸、下見板張りなどの意匠とするなど、まちなみと調和を図る。スチールシャッターなどが露出することを極力避ける。	142
工作物	擁壁、水路のふたは石積、石張り等の自然素材を使用したものとする。	143
案内板、街路灯等	宿場町のまちなみ景観に調和し、統一の意匠を用いることで一体感を演出する。	144
緑のしつらい	まちなみの統一感を演出するため、敷地と道路、水路等との調和を図る緩衝として花や緑の植栽を推進する。また、敷地内に古木がある場合には、保全に心がける。	145

(8) 新茶屋・峠地区のまちなみ景観形成の手法・まちなみ修景事例

保全・整備型の修景の解説・・・街道の建築物および準・街道の建築物

新茶屋、峠地区の歴史や文化を今に伝える各時代の街道の建築物がもつ多様な様式・特徴を受け継ぎ、これらを活かしつつ機能に則して柔軟に修景することが大切です。

素材・色彩 街道の建築物

基準 - 素材

屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行う。

現存する街道の建築物に使われている素材は、地元の生きた有機的な材料が用いられ、時間とともに味わいが増してきます。



峠

基準 - 色彩

茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。

街道の建築物は、無彩色か茶系を基調としています。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

屋根・外壁の色彩例 (右写真のマンセル値)			
	(色相)	(明度)	(彩度)
屋根	3.9P	5.0	2.0
外壁	N	8.1	0.0



新茶屋

●色彩のイメージ

外壁に無彩色や茶系を用いることにより、落ち着きを与えます。派手な色彩の外壁は良好な景観の妨げになります。



良い例



悪い例

基準 — 外観輪郭

外観をパラペット等で覆わず、庇を復元するなど街道の建築物の輪郭を保全する。

峠地区では3階以上の建物がなく、街道の建築物である木曾路特有の2階階高が低い簡素な立面を持つ家が多く残されています。

●外観輪郭

【つし造り】

峠地区では2階部分が低い「つし造り」が街道の建築物の大きな特徴となっています。

【出し梁造り】

2階部分が前に突き出た江戸期の「出し梁造り」が見られます。



つし造り 峠



出し梁造り 峠

●外部輪郭の素材・色彩

屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用いてまちなみを形成します。(色彩基準の詳細は149頁をご覧ください)

基準 - 屋根

(保全形)

平入り切妻の日本瓦葺とする。街道の建築物の屋根勾配を基本とする。

(整備形)

平入り切妻の日本瓦葺とする。現状もしくは街道の建築物の屋根勾配を基本とする。

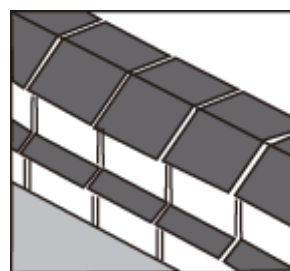
街道の建築物の屋根形態には以下に揚げる特徴があります。適度に凹凸を繰り返す壁面線の並びとともに家並みの連帯感・一体感をつくりだしており、美しいまちなみを構成する要素となっています。



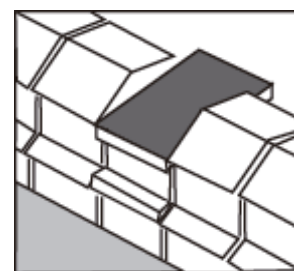
峠

●切妻・平入り

道路と平行に棟を通した切妻屋根で、玄関が道路に面して設けられおり、隣家と妻側を接して建てています。



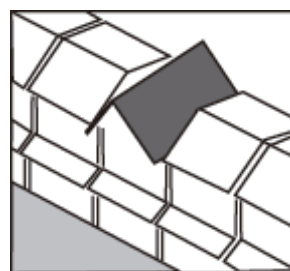
良い例



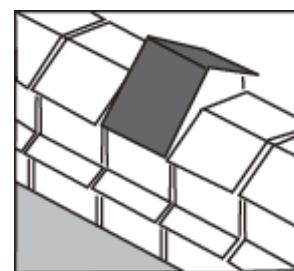
悪い例

●勾配屋根

現状もしくは街道の建築物の勾配を基準とします。



悪い例



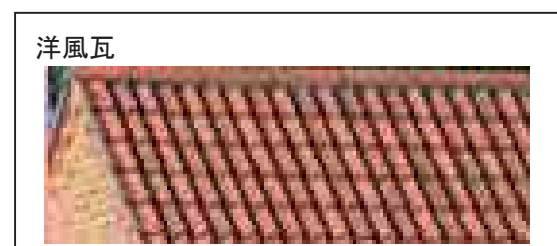
悪い例

●屋根瓦の種類・色彩

屋根瓦は左下のような黒色系の日本瓦とし、光沢が抑えたものを基準とします。派手な色彩の洋風瓦はまちなみの景観を阻害します。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)



良い例



悪い例

基準 - 庇

華美な意匠とならないようまちなみに調和したものとし、街道の建築物の意匠を活用する。

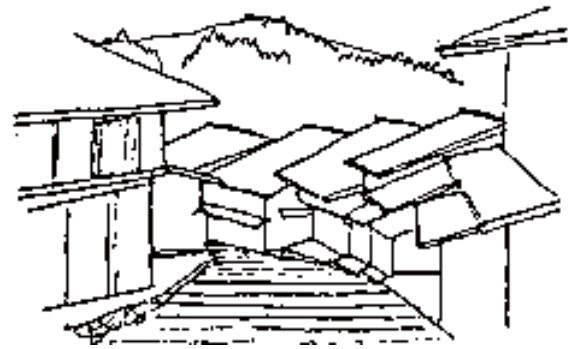
街道の建築物では、庇の出が大きな特徴となっています。庇は雨の進入や日照を妨ぎ、通風を確保する日本の風土をふまえた知恵であり、雨宿りや立ち話ができる場所でもあります。そして、前面道路の勾配と平行になるような高さで庇のラインが通ることによって美しく連続性のあるまちなみが形成されます。



峠

●軒の高さの統一

屋並みと同様に庇のつくり出すラインが前面道路の勾配と平行になる高さの統一に努めます。



峠

資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書（S60）

●庇の勾配

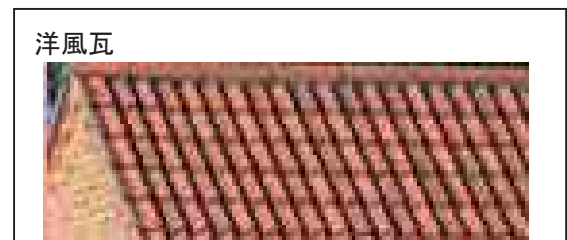
現状もしくは街道の建築物の勾配を基準とします。

●庇瓦の種類・色彩

屋根瓦は左下のような黒色系の日本瓦とし、光沢を抑えたものを基準とします。派手な色彩の洋風瓦はまちなみの景観を阻害します。（色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください）



良い例



悪い例

基準 - 壁面

(保全型)

現状の壁面位置、街道の建造物の特徴である意匠の保持を心がけ、現状の様式を保全する。やむを得ず改修する場合には現状の景観を損なわないようにする。

(整備型)

元の壁面位置・意匠への復元を心がけ、街道の建造物の様式を保全又はとり入れる。やむを得ない場合にはまちなみに配慮したものとする。

街道の建築物の壁面の様式は以下に掲げる特徴があります。街道の建築物の全体に言えますが、馬籠宿の特徴として壁面の様式は簡素を地でいくデザインが主流となっています。

●正面壁面の形状

【下見板張壁・真壁】

壁は下見板を張るか真壁で土を塗り仕上げられています。生きた有機的な材料を用いており、時間とともに味わいを増しています。

●妻壁面の形状

大きく見える妻壁は板張りを屋根下まで張り上げず、白い子壁を設け軽く見せています。あるいは、出窓、下屋、庇等をつけ立面に陰影をつけています。

【下見板張壁・真壁】

妻壁において土壁を風雨から守るために、その土壁表面に木材(下見板)を張った形状を用いています。



峠



新茶屋



下見板張壁

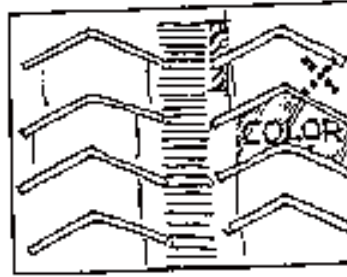
新茶屋



峠

●壁面の材質・色彩

壁面は木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用いてまちなみを形成します。(色彩基準の詳細は149頁をご覧ください)



資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

基準 - 開口部

街道の建築物の特徴を保持している建具を尊重する。やむを得ずアルミサッシを用いる場合は、出格子などの内側に入れたり、まちなみに調和する色調・意匠とする。

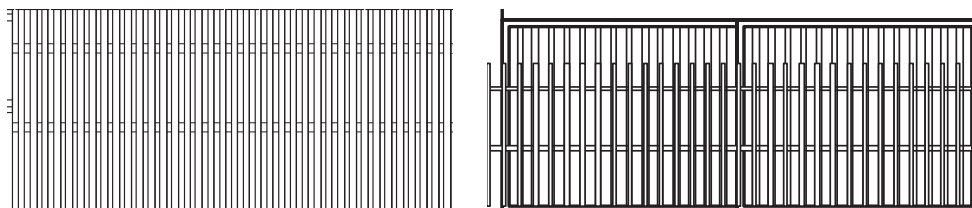
街道の建築物には、1階部分に大戸や格子や出格子、2階部分のせいろ窓や格子付き窓などの意匠が施されています。



峠

●開口部の形状

新茶屋、峠地区において下図のような縦線を基調とした格子の形状が主に用いられています。これらを基準とし、開口部の修景を行います。



●開口部の材質・色彩

開口部は自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。やむを得ずアルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行います。(色彩基準の詳細は149頁をご覧ください)

【玄関戸】 木製戸

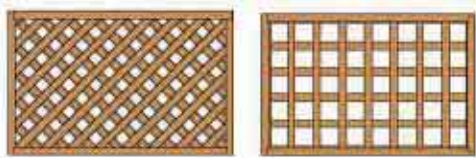


【窓】

悪い例



一般サッシ



ラティス格子(斜め形・正方形)

良い例



格子



出格子

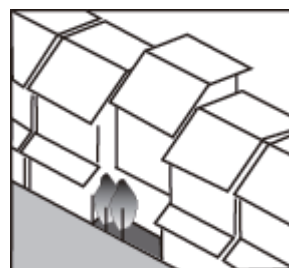
基準 - 塀・門

街道の建築物の特徴を保持している塀・門を尊重する。

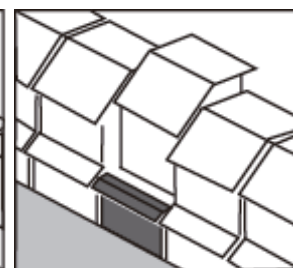
街道の建築物では塀や門は基本的に設けず、植栽を施しまちなみの連続性を確保しています。

●生垣・塀・門の配置

前庭が大きく、道路との間にスクリーンを設ける場合は、植栽を用いることを基本とし、必要に応じて木製、石積、漆喰等を用います。まちなみの連続感を途切れないように配置します。



良い例



良い例

●塀・門の材質・色彩

塀・門を設ける場合は、木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。コンクリートブロック塀やネットフェンスの設置は避けます。



形成型の修景基準の解説・・・新しい建築物

新茶屋・峠地区内には新しい建物が増えています。こうした新しい建物が、街道の建築物の良さを活かし、建物の高さや配置、屋根の形、デザインや色など工夫することで、まちなみとして調和を図っていくことが大切です。

素材・色彩

新しい建物

基準 - 素材

屋根、外壁等は木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものとする。瓦は光沢を抑えたものとする。アルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行う。

材料は地場のもの、自然的有機的材料を用います。近代工業製品は必要など限るよう努めます。



基準 - 色彩

茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とする。

茶、黒、白系を用い、落ち着いた色彩とします。なお、着色していない木材等はこの限りではありません。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

街道の建築物の素材・色彩の良さを生かし、これらとの調和を図ることで連続感・一体感のあるまちなみが形成され、馬籠宿らしいまちなみをより印象づけます。

新建材を用いる場合は、光沢のない材料にするなど、材質や色彩についてまちなみに馴染むものを選ぶことに努めます。

なお、個々に選んだ建材が建ててみると統一感に乏しい、ということにならないように、全体的な素材の調和（デザイン）に配慮します。

基準 - 配置

道路境界線から一定の距離を持った位置に壁面線を統一させ建物を配置する。建物が後退する場合は木製、石積、漆喰塗等の門塀及び生垣等で壁面線をつくる。

街道の建築物は街道から 1～5mに一階正面を設け、その空間を前庭として利用し、きわめて心地よい空間をつくっています。

●建築面積

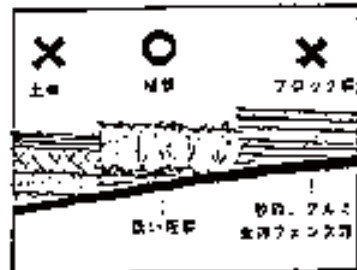
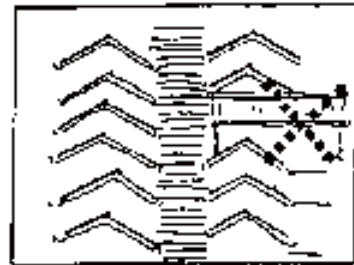
敷地いっぱい大きな、一体的な建物とならないように努めます。

●セットバックの建物

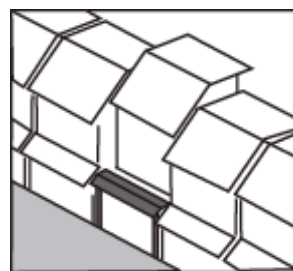
前庭が大きく、道路との間にスクリーンを設ける場合は、植栽を用います。やむを得ない場合に土塀や地元の木材を用いた板塀を用います。

●商業店舗の駐車場の配置

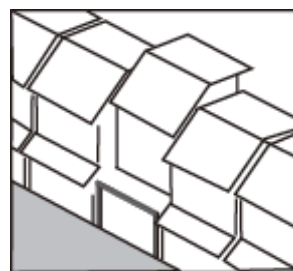
商業店舗の駐車場は建物の裏側に配置することに努めます。やむを得ず駐車場を建物の前面に配置する場合は、植栽や木製などの自然素材を使った出入り口とすることに努めます。また、出入り口を簡易な門で囲うだけでも連続性が確保できます。



資料：山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)



出入口を瓦葺き、木製などの自然素材を設けることにより、まちなみと調和する



出入口を簡易な木製の門で囲むだけでもまちなみの連続性が保たれる

基準 - 高さ

街道側は2階建て以下を原則とする。

基準 - 屋根

平入り切妻の日本瓦葺とする。真壁造り、格子窓、格子戸、下見板張壁等の意匠を取り入れる。街道の建築物の屋根勾配を基本とする。

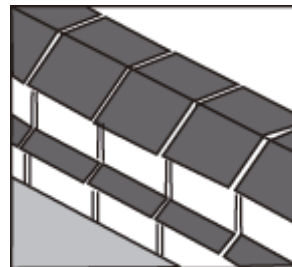
高さは2階建てを原則とし、周囲に馴染むよう配慮するとともに、街道の建築物の平入り勾配屋根とします。街道の建築物は2階建てまでのものが多く、また日本瓦葺きの屋根や道路勾配に平行して庇が揃うことで、美しい連続性のあるまちなみが形成されます。



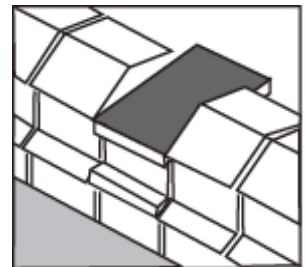
2階建ての民家が並び連続性が見られる 峠

●切妻・平入り

道路と平行に棟を通した切妻屋根で、玄関が道路に面して設けられおり、隣家と妻側を接して建てています。



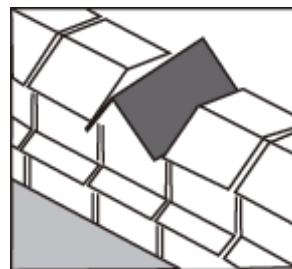
良い例



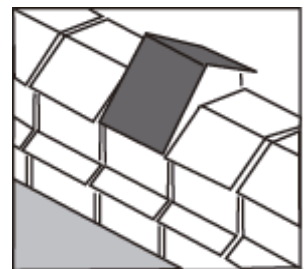
悪い例

●勾配屋根

現状もしくは街道の建築物の勾配を基準とします。



悪い例



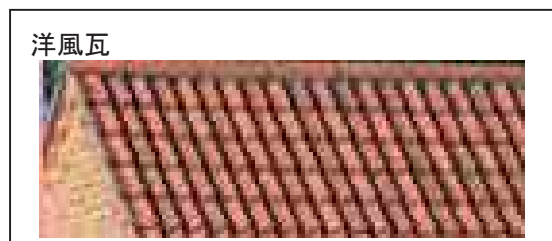
悪い例

●屋根瓦の種類・色彩

屋根瓦は左下のような黒色系の日本瓦とし、光沢が抑えたものを基準とします。派手な色彩の洋風瓦はまちなみの景観を阻害します。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)



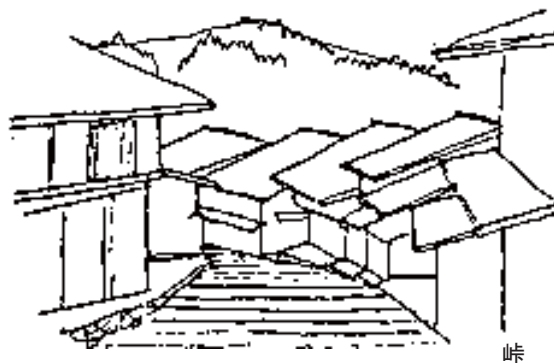
良い例



悪い例

●軒の高さの統一

屋並みと同様に庇のつくり出すラインが前面道路の勾配と平行になる高さの統一に努めます。



●庇の勾配

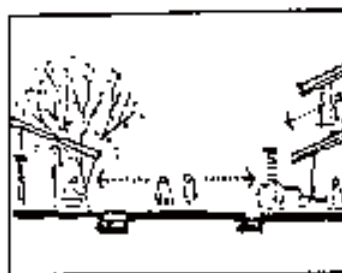
現状もしくは街道の建築物の勾配を基準とします。

資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書 (S60)

●庇下空間

庇下空間は立ち入れなくとも少なくとも視覚的に出来る限り開放し、演出をします。

この場合、緑が設けられある程度開放されているよう努めます。



資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書 (S60)

基準 ー壁面・開口部

格子窓、格子戸、漆喰塗壁、下見板張壁等の街道の建築物の意匠を取り入れる。

間口の大きな建物は避け、やむを得ず間口が大きくなる場合は、デザイン上の工夫によってまちなみのリズムをこわさないように努めます。

新しく建てる場合は、柱、壁、開口部は個々に考えず、大きな面を構成する要素としてとらえて全体をバランスよく配置することに配慮します。



●正面壁面の形状

下のような街道の建築物の様式を取り入れることに努めます。

【下見板張壁・真壁】

壁は下見板を張るか真壁で土を塗るかして仕上げられています。生きた有機的な材料を用いており、時間とともに味わいを増しています。



下見板張壁

新茶屋

●妻壁面の形状

大きく見える妻壁は板張りを屋根下まで張り上げず、白い子壁を設け軽く見せています。あるいは、出窓、下屋、庇等をつけ立面に陰影をつけています。これらの様式を取り入れることに努めます。

【下見板張壁・真壁】

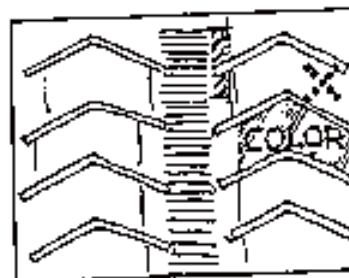
妻壁において土壁を風雨から守るために、その土壁表面に木材（下見板）を張った形状を用いています。



峠

●壁面の材質・色彩

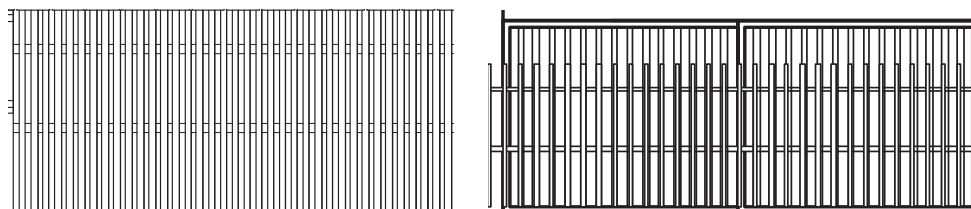
壁面は木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用いてまちなみを形成を図ります。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)



資料:山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

●開口部の形状

新茶屋、峠地区において下図のような縦線を基調とした格子の形状が主に用いられています。このような街道の建築物の意匠を取り入れます。



●開口部の材質・色彩

開口部は自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。やむを得ずアルミサッシ等を用いる場合は、色を黒・こげ茶とし、街道の建築物の意匠を取り入れるかまたは修景を行います。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

【玄関戸】 木製戸



【窓】

悪い例



一般サッシ



ラティス格子(斜め形・正方形)

良い例



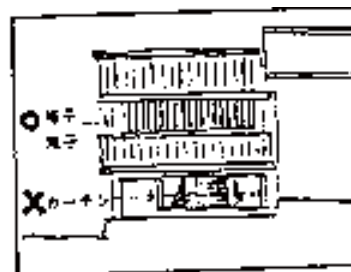
格子



出格子

●開口部の種類

カーテン、レース類の使用を避け、障子や格子を使用することに努めます。ガラスより障子を外側にするとまちなみに調和します。



資料: 山口村神坂地区環境診断調査報告書(S60)

基準 - 塀・門

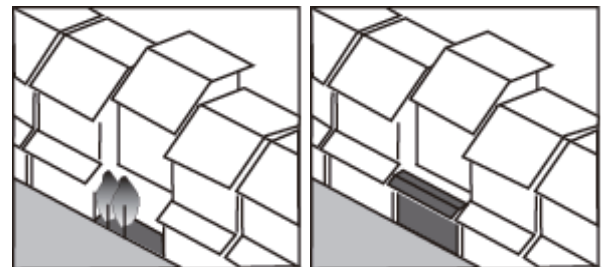
コンクリートブロックや金属類が露出することは避け、まちなみに調和したものとする。

街道の建築物は塀や門は基本的に設けず、植栽を施しまちなみの連続性を確保しています。



●生垣・塀・門の配置

前庭が大きく、道路との間にスクリーンを設ける場合は、植栽を用いることを基本とし、やむを得ない場合は土塀や板塀を用います。まちなみの連続感を途切れないように配置します。



良い例

良い例

●塀・門の材質・色彩

塀・門を設ける場合は、木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。コンクリートブロック塀やネットフェンスの設置は避けます。



建築設備・付帯物などの修景の解説

建築設備、車庫や駐車場、自動販売機などは、現代生活を営む上でなくてはならないものとなっています。しかし、道路からみえるところに露出している場合は、街道の建築物のまちなみの表情や連続性を阻害してしまいます。こうした建築設備や付帯物などについては、街道の建築物のまちなみに配慮する工夫が必要です。

建築設備

建築設備・付帯物など

基準 — 建築設備

空調室外機や燃料庫等の建築設備は木製格子枠で修景する。道路から見えない位置への設置に努める。

空調室外機などの建築設備はその室外機などがむき出しになっていると、まちなみの表情を崩してしまいます。

●建築設備の配置

外観を阻害しないように、道路側のファサードに設けずに裏手に配置するなどの工夫をします。

●目隠しの形態

建築設備を道路側のファサードに設ける場合には、木製などの外観に調和したもので囲みます。また、室外機を外壁等と同色に塗るなどの工夫をします。

●目隠しの材質・色彩

目隠しには木、石、瓦、板等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。

また、室外機に色を塗るなどの工夫をします。



室外機に目隠しを施し、周囲の景観に調和している

Great (推奨)



縦線を基調とした和風格子壁面と同色に塗った室外機



通りから望見できなくした室外機

Good (良い例)



横線を基調とした和風格子



正方形のラティス格子

Bad (悪い例)



格子なし
斜めラティス格子

基準 — 青空駐車

道路に面した駐車場を設けることを避けます。やむを得ず設ける場合は、街道の建築物の様式の柵や塀、植栽を設置するなど、まちなみの連続性やうるおいに配慮する。

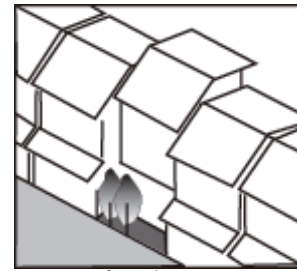
植栽などを設置すると、まちなみの連続性が生まれます。

●植栽の配置

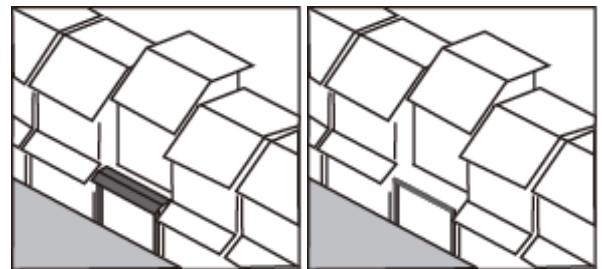
植栽をまちなみの連続感を途切れないように配置します。やむを得ない場合に土塀や地元の木材を用いた板塀を用います。

●商業店舗の駐車場の配置

商業店舗の駐車場は建物の裏側に配置することに努めます。やむを得ず駐車場を建物の前面に配置する場合は、植栽や木製などの自然素材を使った出入口とすることに努めます。また、出入口を簡易な門で囲うだけでも連続性が確保できます。



良い例



出入口を瓦葺き、木製などの自然素材を設けることにより、まちなみと調和する

出入口を簡易な木製の門で囲むだけでもまちなみの連続性が保たれる

基準 — 広告板・看板

位置、大きさ、意匠、色彩に配慮する。看板類の大きさは建物の外観形態を隠さない程度にし、まちなみに調和したものとする。

「心につながるふるさと景観形成住民協定」を遵守します。

広告物・看板は店舗などではその建物の顔であり、表札のようなものです。また、通りの賑わいをつくってくれます。それだけに全体の雰囲気や景観を損なわない工夫が必要です。



木製の看板により、街道の建築物と調和した景観となっている。

● 広告板・看板の配置

広告物の設置、掲出及び表示は、自己用に限りません。

● 広告板・看板の大きさ

高さ 5m以下、表示面積は 6m²以下とします。建築物の壁面に表示する場合は、同一壁面の 10%以下の面積とします。



● 広告板・看板の材質・色彩

広告物の材料は自然素材を用いて、歴史的な宿場に調和するものとし表示内容も宿場の品位を損なうことのないようにします。



基準 — 付属物

道路から容易に見通せる位置にある自動販売機、冷蔵庫等については、木製格子枠等の自然素材による修景を行う。

生活様式の変化に伴い、自動販売機やゴミ置き場などの付帯物が増加しつつありますが、これらのものを道路に面して露出せず、格子などで囲う、また色やデザインを配慮するなど、まちなみと調和するよう工夫します。

●配置

道沿いの自動販売機は、屋内に設置することを原則とします。

●目隠しの形態

木製格子枠などの外観に調和したもので囲むなどの工夫を施します。

●目隠しの材質・色彩

目隠しには木などの自然素材を使用したものとし、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。

また、付属物に落ち着いた色を塗るなどの周辺に調和するものとしします。



自然素材により修景した自動販売機



屋内に配置した自動販売機

基準 - 車庫

車庫の開口部は、格子戸、下見板張りなどの意匠とするなど、まちなみと調和を図る。スチールシャッターなどが露出することを極力避ける。

まちなみとして連続性を保つためには、車庫に戸をつけるなどの工夫が必要です。また、やむを得ずスチールシャッターなどを使用する場合には、デザインや材質・色彩などに配慮し、街道の建築物のまちなみとの調和を図る工夫が必要です。



網入りガラス戸の場合は、つや消し黒、目の細かい格子、半透明のガラス戸が望ましい

●車庫の形態

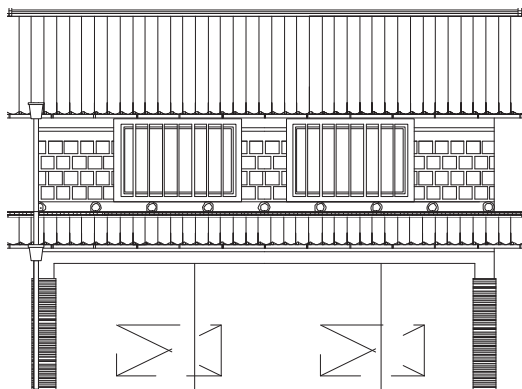
木製戸などの外観に調和したもので囲むなどの工夫をします。

●車庫の材質・色彩

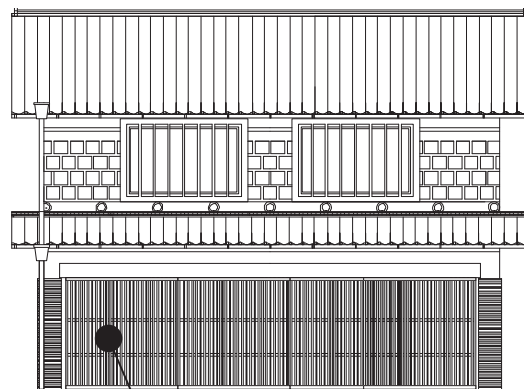
目隠しには木等の自然素材を使用し、無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。(色彩基準の詳細は 149 頁をご覧ください)

●車庫のシミュレーション

(修正前)



(修正後)



格子の車庫扉を設置

基準 - 工作物

擁壁、水路のふたは石積、石張り等の自然素材を使用したものとする。

擁壁や水路などのデザインや材質・色彩などに配慮し、まちなみに馴染む工夫が必要です。

●**擁壁、水路の素材**

無機質なコンクリート擁壁・水路は避け、自然石等を用いた石積み擁壁・水路とします。

また、擁壁、水路に緑化を施すことにより、まちなみに調和します。

●**水路のふたの材質・色彩**

水路にふたをする場合は、下の写真のような石張りの材質を用います。

石の素材そのものの色を基調とします。



基準 — 案内板、街路灯等

宿場町のまちなみ景観に調和し、統一の意匠を用いることで一体感を演出する。

案内板や街路灯などのデザインや材質・色彩などを新茶屋、峠地区それぞれで統一を図り、まちなみに馴染む工夫が必要です。

●案内板・街路灯の形態

外観に調和したものとしします。案内板に屋根などをつけ、宿場町のまちなみを演出します。

●案内板・街路灯の材質・色彩

木、石、瓦、板等の自然素材を使用したものや無彩色か茶系を基調とした色彩を用います。



基準 - 緑のしつらい

まちなみの統一感を演出するため、敷地と道路、水路等との調和を図る緩衝として花や緑の植栽を推進する。また、敷地内に古木がある場合には、保全に心がける。

玄関や門、または窓やベランダにプランター等を設置して、まちなみにアクセントをつけます。また、季節の変化が楽しめるように演出します。

●緑の配置

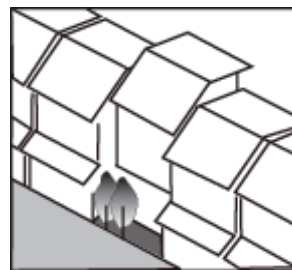
陶器製、竹製の和風花瓶等による鉢植えやプランターにより道路沿（前庭）、中庭及び裏庭の緑化の推進を図ります。

●垣根

垣根は生垣を原則とし、やむを得ない場合は、土塀や地元の木材を用いた板塀とします。

●管理、清掃等

ゴミ拾い、草刈、側溝の掃除等を継続的に行います。



良い例